

# 歩道整備など23項目の要望掲げ、県土木と交渉

## 県道新井柿崎線整備促進議員連盟



て、県道新井柿崎線の早期整備を求めて要望活動を行いました。この日は、市当局からも笠原都市整備部長と関係課長が随行しました。また、上越市区選出の小林、小山、榎井3県議からも同席してもらいました。県からは野沢土木部長と道路整備部の課長2人が応対しました。(写真は土木部長室で)

県道新井柿崎線は上越市を南北に縦貫する重要路線です。一日あたり7000台以上の車両が通行しています。しかし、交通量が多い割には、道路が狭かったり、歩道が未整備のところが多分とあつたりと、大変危険な状況です。今回、県当局に要望したのは、道路の拡幅、歩道整備、路盤改良、防雪柵の設置、消雪パイプ敷設、信号機設置など23項目です。これらについては、同議員連盟で現地調査を行い、木浦市長にも県への働きかけを求めています。道路整備については県内各地で

要望が多いためになかなか整備が進みません。県では県内全体で約20億円の道路関係予算がありますが、そのうち上越分は約3億1000万円ほどになるといふことです。この日の同議員連盟の要請に野沢土木部長は、通学路を含む歩道整備を優先して検討すると答えました。

同議員連盟は14市町村の合併後、新井柿崎線沿いの地域から選出されている市議会議員が集まり、超党派で結成した組織です。今春の改選後も同連盟の存続が確認され、日本共産党市議団からは、吉川区選出の橋爪議員と頸城区選出の上野議員がメンバーに入っています。この日の要請活動には、総務常任委員会の会議と重なったため、8人の市議(当議員団からは上野議員)が参加しました。連盟の毎年の要望活動によって、少しずつではありますが整備が進んでいます。

# 12年ぶりに10万票超え、今後の要求実現、県政革新へ大きな重み...県知事選の結果で「民主県政の会」見解

民主県政を実現する新潟県みんなの会は20日、今回の県知事選挙の結果について次のような見解を明らかにしました。今後の住民運動や市政にもかわりがありますので、掲載します。

19日投票でたたかわれた県知事選挙で、「民主県政の会」世話人代表・前県労連議長の山崎えいぞう候補は、138009票(得票率15.38%)を獲得しました。「民主県政の会」の県知事候補が10万票をこえたのは12年ぶりのことであり、今後の要求実現運動、県政革新を展望しても大きな重みをもつものです(中略)。

一方、自民党・公明党の推せん民主の一部の支援で当選した泉田候補は、有権者比では3割台の支持にとどまりました。多くの県民が今の県政に批判や不満をもっていることを示すものです。

民主党は候補者を擁立することもできませんでした。県議会で自民党などと「オール与党」を構成している当然の結末といえます。

選挙戦では、貧困と格差が急速に拡大するなかで、いかにして、くらしと地域をまもるのか、ということが鋭く問われました。私たちは、くらしと地域を守るためには、自民党・公明党などによる国の悪い政治に、県民の立場できちんとものをいうこ

とが必要だと訴えてきました。「後期高齢者医療制度廃止の一票は山崎えいぞうに」、「県発注工事の現場で働く労働者の賃金は時給1000円に」、「汚染米の原因になった輸入米の中止を」などの訴えが届いたところでは、急速に支持と共感が広がりました。

一方、泉田陣営は具体的に語るべき政策がなく、きわめて抽象的でした。しかも政策論争を回避するなか、山崎候補は生活現場に足を運び、県民の生の声を政策化して提起しました。

子どもの医療費助成を、「市町村の財政の肩がわりではいけない」と拒んできた泉田知事が、09年度から助成拡充を自身のマニフェストに盛り込んだことは、県民世論と山崎候補の主張の反映であり、今回の選挙戦の重要な成果だといえます。

また、国鉄時代、草取りなどのいやがらせに屈せずたたいぬいた姿に、「涙が出た」「この人なら私たちの気持ちがあつてもらえそう」など、大きな反響があつたことも選挙戦の特徴でした。

山崎候補が選挙戦で掲げてきた政策はいずれも緊急・切実なものばかりです。「民主県政の会」はかかげた政策の実現のため、これからも県民のみなさんといっしょにがんばっていく決意を、改めて表明するものです。

上越市議会議員有志で組織する「県道新井柿崎線整備促進議員連盟」(宮崎政国会長・15人)が20日、県の野沢土木部長と面談し



## 日本共産党上越市議員団ニュース

154 2008年10月26日

連絡先 橋爪 法一 548-3628 (吉川区代石)  
樋口 良子 544-6802 (中門前3)  
上野 公悦 530-2203 (頸城区中柳町)  
平良木哲也 525-9096 (上中田)